



待機児童ゼロの子育て環境を

待機児童	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月1日	0	24	3	6	3	0	36人

既存施設活かせ！

社会問題化している保育所の待機児童問題。川西市では今年3月1日現在で231人、4月1日時点で36人の待機児童がおり、市の「ゼロ目標」は達成できていません。既存の保育所・幼稚園はつぶすのではなく、有効に活用し待機児童ゼロを実現すべきです。

市の財産を大切に！

長い間、子育てを支えてきた便利な畦野駅前の緑保育所は今年4月に廃園。市は土地を売却する計画です。私（黒田）は、耐震補強など必要な改修を行い、待機児童解消や市内で子育てができる環境整備こそ市の責務だと存続を求め続けています。

市の財政を考えても、新たな施設をつくるより、よほど効果的。保育所、留守家庭児童育成クラブの待機児童ゼロをめざして既存の公共施設は大切に使うべきです。

地域密着施設こそ

「川西市子ども・子育て計画」では、地域の幼稚園や保育所を廃園・解体して幼稚園と保育所を合体した「認定こども園」を建設する計画です。

しかし、これでは子育て拠点が減少、保育所と幼稚園機能の違いを軽視、保護者・住民要求に応えられず、官民連携もスムーズにいきません。私は具体事例をあげて追求、計画の抜本的見直しを行い地域で顔の見える子育て応援・少子化対策を急ぐことを求め続けています。

川西市・認定こども園計画の魔訶不思議・・・

市の認定こども園計画では、保育所定員は増やさずに幼稚園定員を設定するため、建設予定の「川西こども園」では、下記の表を比較すればわかるように、入所できない保育児童が拡大します。幼稚園の3歳児保育拡大は当然ですが、保育所定員を増やさないと待機児童が生まれるのです。

現在、「川西北こども園（定員180人）」の建設計画があります。川西北小学校南側にある市立川西北幼稚園敷地での建替えとしていますが、同小学校北側には、民間保育園（120人）、周辺にも幼・保が集中している地域。優先順位から考え、清和台など保育所のない地域にこそ設置すべきです。

解体した牧の台幼稚園（Is値0.79）、解体予定の川西北幼稚園（同0.73）、廃園にしたふたば幼稚園（同0.90）など耐震補強しなくてもいい施設から廃園・解体はもったいな過ぎです。

4月入所児童数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
川西保育所（60）	—	6	15	15	14	16	66人
川西幼稚園	—	—	—	—	7	20	27人

川西こども園は、保育所敷地での建設のため3階建「一時保育室」「子育て支援室」常設が困難？？

川西こども園	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	定員130
幼稚園（1号）	—	—	—	20	25	25	（70）
保育所（2号）	—	—	—	11	11	11	（60）
保育所（3号）	6	10	11	—	—	—	

黒田みちのたんぽぽだより（N0189 病院特集第14弾）

くらし・福祉・教育優先の市政めざして「みんなが住んでよかった」と思える川西市に



「市立川西病院をつぶさないで」「職員の大規模解雇絶対あかん」「指定管理者制度反対」「命を守れ」—それぞれの思いを色とりどりのプラカードに仕立て、5月28日に市役所前、6月6日には病院前で市民有志がスタンディングを行いました。

「まだ、意見言える」

「市立川西病院が今のまま新しくなると思っていた。協立病院（協和会）が管理・運営するなんて知らなかった」「まだ意見が言えるんですね。あきらめていました（夏に市民の意見を聞くパブリックコメントを実施）」など道行く方が関心をもって声をかけて下さいます。

252人が回答、切実

5月8日からはじめた「病院アンケート」は、FAXや郵送などを含め252名の方から回答。切実な思いが綴られ、現市立川西病院が、住民の安心・命の砦になっていることを強く実感します。

市は5月1日に広報誌を全戸配布しましたが、住民が一番懸念している「市北部から二次救急（入院・手術可能）総合病院が無くなる」ことへの疑

問や不安に応える内容にはなっていません。

病院は街のかなめ

まちづくりの根幹である「病院」。新名神高速道路開通を契機に大阪・神戸・京都のベッドタウン、北の玄関口として発展させるチャンス。病院は欠かせません。



署名は16000筆

「川西市北部に総合病院の存続を求める会」の「市・構想（案）の白紙撤回を求める署名」がとうとう16000人分を超えたと嬉しい報告が届きました。

引き続き、声をあげること、行動を起こすこと……。皆さんとご一緒に「市立川西病院・北部での存続を求めて」取り組んでいきます。

夏にパブコメを書こう！！

市は夏ごろに、「総合医療センター」の具体的な内容を盛り込んだ「基本構想」を策定する計画です。

「策定にあたってはパブリックコメント（意見を聞く制度）を実施し、皆様のご意見を踏まえ、策定します」としています。ひとり一人が、がんばって、しっかりと意見を伝えましょう。住民が主人公！！

公設民営・指定管理者制度って何だぁ～？！

市立病院整備調査特別委員会（2017・12・21）配布資料
協和会から提出された書類で市が作成（黒田・一部抜粋）

※「公設民営」＝市が病院を建設し運営は民間病院が行なうこと。

名ばかり「公立病院」。(現医師・看護師など市職員 280 名は解雇、協和会職員に)

※「指定管理者制度」＝協定に基づき運営管理を民間病院に任せる制度。

市は整備費 176 億円（利息 51 億円）で土地、建物、医療機器、OA 機器など一式を整えた病院を建設し協和会（協立病院）に無償で貸与するほか、毎年、「指定管理料①」3 億円（国の交付金分）を支払います。

一方、協和会は市が全額借金で建てた建物などの元利償還金相当額などの 2 分の 1 を「指定管理者負担金②」として市に納め「政策医療」を実行するとしています。

※「指定管理」すれば「黒字」?! =2019 (H31) 年度から協和会が現市立川西病院 (250 床) の管理・運営を行う予定です。協和会の計画によると現在 33 億円の人件費を 27 億 4800 万円③ (▲5 億 5200 万円) に削減しますが、赤字は 3 億 6300 万円④。2020 (H32) 年度には、過大と思える入院稼働率 90% に上げますが、3 億 2600 万円の赤字⑤。翌年は 4 億 2100 万円の赤字⑥となっています。現在、市立病院は赤字 10 億円で市が負担 (国の交付金 2 億 5000 万円) していますが、協和会は人件費を 5.5 億円減らし、それでも 3~4 億円の赤字なのです。

※市は借金、利益は協和会! ? ところが、2022 (H34) 年度に新病院 (400 床) を開設すると、翌年から黒字化し、以後 2.7 億円前後の利益をコンスタントに上げる計画です。利益は全部協和会のもの。市は大きな借金を 30 年間返済し続け、協和会はコンスタントに利益を上げるといった構図が見えてきます。

(単位: 百万円)	2019 (H31) 年度	2020 (H32) 年度	2021 (H33) 年度	2022 (H34) 年度	2023 (H35) 年度	2024 (H36) 年度	2025 (H37) 年度	2026 (H38) 年度	2027 (H39) 年度	2028 (H40) 年度
収益的収入・合計	4 8 1 5	5 0 0 1	4 9 9 6	8 9 7 9	9 7 9 6	1 0 1 7 2	1 0 5 7 5	1 0 5 6 4	1 0 6 0 6	1 0 5 8 5
業収益 計	4 4 8 7	4 6 6 9	4 6 6 9	8 7 5 1	9 5 6 9	9 9 4 5	1 0 3 4 7	1 0 3 3 7	1 0 3 7 9	1 0 3 5 7
うち(入院)	3 2 7 6	3 4 5 9		6 1 9 0	6 8 4 4	7 1 5 4	7 4 9 0	7 4 9 0	7 5 1 0	7 4 9 0
うち(外来)	1 0 2 5	1 0 2 1		2 2 1 6	2 5 3 7	2 4 1 3	2 4 6 8	2 4 7 9	2 4 7 9	2 4 7 9
業外収益 計	3 2 8	3 2 8		2 2 8	2 2 8	2 2 8	2 2 8	2 2 8	2 2 8	2 2 8
うち指定管理料	3 0 0 ①	3 0 0	3 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0	2 0 0
収益的支出・合計	5 1 7 8	5 3 2 7	5 4 1 7	9 3 0 9	9 7 5 5	1 0 0 3 2	1 0 3 0 1	1 0 3 1 4	1 0 3 2 1	1 0 3 2 3
業費用 計	4 7 5 5	4 8 1 0	4 8 1 4	8 2 8 7	8 7 0 7	8 9 7 4	9 2 3 1	9 2 4 8	9 2 5 6	9 2 6 2
うち人件費	2 7 4 8 ③	2 7 4 8	2 7 4 8	4 9 3 6	5 0 5 3	5 2 0 0	5 3 4 1	5 3 4 1	5 3 4 4	5 3 4 0
業外費用 計	4 2 3	5 1 6	6 0 3	1 0 2 2	1 0 4 8	1 0 5 9	1 0 7 0	1 0 6 6	1 0 6 5	1 0 6 1
うち管理者負担金	1 1 2 ②	1 9 9	2 8 6	5 6 0	5 5 7	5 5 4	5 5 1	5 4 8	5 4 5	5 4 2
収益的収支差引額	▲ 3 6 3	▲ 3 2 6	▲ 4 2 1	▲ 3 3 1	4 1	1 4 0	2 7 4	2 5 1	2 8 6	2 6 2
単年度収支	▲ 3 6 3 ④	▲ 3 2 6 ⑤	▲ 4 2 1 ⑥	▲ 3 3 1	4 1	1 4 0	2 7 4	2 5 1	2 8 6	2 6 2
今年度～入院 45500 円・外来 10600 円/1 日単価、入院稼働率 81.2%	委員会説明時～入院 57000 円・外来 13500 円/1 日単価⑦、入院稼働率 90%									

H28 年度病院決算額
56 億 146 万円

いったい何が変わるのでしょうか?!

しっかり声をあげましょう!!

※新病院は儲かる? 患者負担はどうなるか。診療報酬は国で統一され官民格差はありませんが、民間病院では病院指定の入院セットやおしめの利用を 1 枚単価で請求、入院 3 カ月を超えると一部負担金を払わなければならないなど患者負担が、やはり大きくなっています。

※病院の性格一変 また、新病院は、外来、入院とも診療報酬の高い患者⑦を優先し、紹介状なしの受診ができず、入院患者の早期退院が推進され、人間ドッグなど健診はしない、人気の緩和ケア病棟は作らない、など、今のように使い勝手の良い病院ではなくなります。

※北部の救急医療は? 一番の問題は、市北部から緊急の検査・手術・入院ができる 2 次救急・総合病院がなくなること。市は、現病院正面駐車場に診療所をつくるとしていますが入院・手術はできません。診療所でレントゲンや点滴などはできても MRI や CT 検査はできません。検査・入院・手術を行うため新病院までのバス運行を協和会に委託するとしています、病気やケガの方が 1 時間に 1 本のバスを利用できるのでしょうか。アンケート回答にも病院が遠くなる、時間的・経済的負担が増えることへの不安の声がたくさん。市内救急ベッドは今より 203 床削減されます。市民が期待していた交通費補助は廃止。協和会には更に税金投入・・・

※事業費はどこまで? 総事業費は 176 億円+利息 51 億円で済むはずがありません。浸水被害対策や耐震、駐車場確保への手立て、職員解雇に伴う給与保障など問題山積。それらは全て市民の借金。補助金利用ではありませんから、あまりにも無謀です。

※国の交付金は? 協和会の負担金と国の交付金があり、市の負担は 10% だけと説明しますが大丈夫か? 国から市に示された昨年度の社会資本整備総合交付金内示額は申請の 52% (▲2 億 4800 万円)。仮に病院が 100% 措置されても市への交付金総額が減少すれば、市の財政に貢献しません。また、指定管理者が医師・看護師を確保できず、負担金を払えないといった事例などが全国で起こっています。